

【重要なお知らせ】新型コロナ感染拡大防止のため、当面の間、講習会等の開催を自粛しています。ご不便をおかけしますが、時期の栽培管理資料等は各特報の中で記載する予定です。ホームページでも随時公開しています。

## ◆ 【重要】 腐らん病撲滅運動週間 6/20-30 \* 「枝腐らん」急増中！

全域で腐らん病多発状態です。被害枝（部）を放置すると梅雨期に感染拡大し、秋以降の蔓延化につながります。

6月が蔓延予防のポイントです！ここで園地の点検と被害枝除去・被害部治療を集中的に実施してください！

今回は急増中の「枝腐らん」についてポイントは下記です ↓

- ① 枝腐らん特徴：病斑は5年生以下の比較的細い枝で濃褐色となり枝枯れする \*3月以降顕著に発生
  - ② 枝腐らん感染経路：採果痕（収穫後の果台）・剪定痕・摘果後の果柄（ツル）等の新しい傷口
  - ③ 摘果後の果柄や剪定痕からの感染リスクが高い。夏季の徒長枝の切り残しが長いと枯れこんで感染しやすくなる傾向。
  - ④ 感染最盛期：やはり6月 → 感染したものは約6か月潜伏し、収穫後から翌8月にかけて発症
  - ⑤ 【要注意】 ふじは果柄が落ちにくいいため、枝腐らんが発生しやすい
  - ⑥ 薬剤防除
- ◆ 摘果後の果柄感染防止のため、7月上旬にラビライト水和剤500倍を散布する。\*7月上旬定期に採用（果樹特報No5内）
  - ◆ 胴腐らんが多い場合は、粗皮形成が最盛期となる梅雨最盛期の定期散布にトプジンM水和剤1500倍を加用する。



↑ 5年生細枝の被害（濃褐色）。4月から発生顕著。



↑ 中枝単位の被害  
5月以降発生顕著。  
発生はかなり多い。



↑ 採果痕（昨年）から感染。本年、被害発症。見つけにくいですが、発生は多い。ここからも感染拡大

## ◆ 【特集】 花芽を着けよう！シナノリップ新梢管理の実施について

導入から6年目を迎えた早生種シナノリップ。初期導入樹を中心に一定量の出荷が見込まれます。ただし、昨年到现在地からは「花芽が少ない…」等の声があがっています。来年の花芽着生に向けてのポイントはここです ↓

- ① 主枝候補枝等の誘引 ⇒ 60℃目安・8月以降は枝が固くなり欠損する場合がありますので7月末までに実施。
- ② 主枝等先端に発生した新梢（3本程度）は下向き1本を残し、残りは摘芯（基部3~4枚）等をする。
- ③ 不要な徒長枝は早めに摘芯等を行い、次年度の結果枝候補に良く陽を当てる。
- ④ 主枝・側枝最先端に着果したものは、枝下垂防止のため、できるだけ摘果する。

シナノリップは若木時代樹勢が強く、枝は直立性が非常に強いので、樹勢が落ち着くまでは花芽が着生しない性質があります。よって、早い段階の誘因作業が必要です。

～ お知らせ ～

状況によりませんが、8/20前後でシナノリップ現地検討会の開催を予定しています。当日は、管理資料のほか、試食検討も行う予定です。講師は3年目の堀内がつとめます。詳細は来月の特報内でお知らせします。真夏のリップ試食してみませんか？部会員の皆さんのお越しをお待ちしております！

◆ **黒星病 2020**

皆さんの万全防除のお陰を持ちまして過去5年で最小の発生です（100果実に1個あるかないか?!）。2年連続で抑え込むことができ、管内の密度はかなり減ったと推測されます。ただし、気温が低下するお盆過ぎから再度感染（葉へ）が始まります。お盆過ぎ～9月末まで薬剤散布を徹底し『来年度感染源を作らない』対策を講じてください。

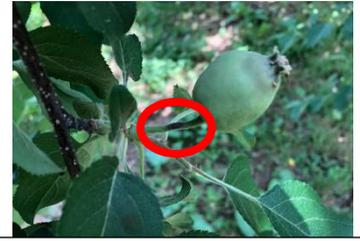
【注意】今年の特徴で見つけにくい葉裏・果柄（軸）に病斑があります。果実被害が多い場合はその辺も注視ください。



↑ 黒星病斑 1 葉表に茶褐色の丸い斑点。基部葉に多い傾向



↑ 黒星病斑 2 葉裏に茶黒いの丸い斑点。見つけにくい。



↑ 黒星病斑 3 果柄（軸）に黒色斑点。見つけにくい。

◆ **ふじ仕上げ摘果のポイント**

\*仕上げ摘果講習会資料はホームページに公開中です。営農情報へアクセスください！

全体ではふじの着果は昨年より良い状況です。良品果実を中心に残し、変形果・小玉・着果位置の悪い果実は早めに除去してください。『つきが良い年ほど、早く・強く摘果』することをおすすめします。

- ① 同じ側枝内なら、良い果実が一部に偏っていても良い。
- ② 若木の骨格枝育成や伸ばしたい枝の先端部には着果させない。
- ③ 日焼け果になりやすい位置の果実はできるだけ落とす。
- ④ 日当たりの良い枝と悪い枝では着果量を加減する。日当たりの良い枝は多めにつける。
- ⑤ 樹勢によっても着果量を加減する。弱い樹は少なく、強い樹は多めにつける。
- ⑥ 肥大しても枝にあたらず傷がつかない果実。収穫時には縦横10cm弱は肥大することを考慮する。
- ⑦ 太い結果枝より落ち着いた枝（果台を何回も通ったもの）で細い結果枝の果実。（下図参照）
- ⑧ 果台が2cm以上の長いところへ結実した果実はできるだけ除去する（ふじ）。

果台と果台枝に注目  
果台枝がいつまでも伸長している果実は、摘果時にいくら大きくても良い果実にはなりにくい。生育が進むにつれ肥大が止まり、逆に小玉で地色が抜けない果実になりやすい。

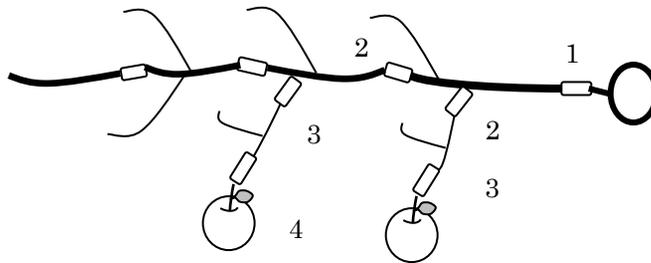


図 着果させたい結果枝

**せん孔細菌病 多発注意 6月も枝病斑切除を徹底し、菌密度低下に努めて下さい。**

春型枝病斑の特徴（早急に園内を見回り、必ず切除して下さい）



写真（左：健全枝 右：春型枝病斑）

\*春型枝病斑は、表皮を削ると木質部が「アメ色」に変色しています。

**春型枝病斑**

病斑部表面は、黒紫色に変色している。枝病斑の内80%は、先端部に発生。

**切除位置**

枝病斑ギリギリではなく、健全な芽を3つ含めて切除する。



【日曜仕上げ摘果青空教室の開催について】 \*6/17 組合員訪問で詳細通知を配布しています。

仕上げ摘果のポイントを中心に講習会を開催します。個別の質問もお受けします。お忙しい中ですが、足をお運びください。

- ◆ 日時・集合：6月27日（土）りんご 午前10時 科野事業所前 6月27日（土）もも 午後1時30分 南部共選所前
- ◆ 問い合わせ先：園芸課Tel23-3933 内山（りんご）・原澤（もも）